

# クラウド型アンケート作成ツール ”Microsoft Forms” の機能

大久保 英一・根岸 崇

## Functions of cloud-based questionnaire creation tool “Microsoft Forms”

Eiichi OHKUBO · Takashi NEGISHI

---

### Abstract

Our college introduced Microsoft 365 in 2020. Microsoft365 is a cloud-based application provision service. This service was developed as “TEITAN365” so that it can be used by students and faculty members.

Microsoft 365 can provide Office apps and use teams, a collaboration tool. With restrictions imposed on social activities due to COVID-19, it has attracted attention and is also being used in business. The services that can be used differ depending on the type of contract, but educational licenses are cheaper than general licenses. Many tools are also available with an educational license.

In this paper, we focused on Microsoft Forms among these tools. Forms can create surveys and quizzes. The purpose was to investigate the functions of "Microsoft Forms" and provide hints for using them in lectures.

**Keyword** : Forms, Microsoft365, Survey tool

### 要旨

2020年度に本学で導入した Microsoft365 はクラウド型アプリケーション提供サービスである。本学では「帝短 365」として、学生教職員が使用できるように環境整備がされている。Microsoft365 では、Office アプリの提供や、コラボレーションツール teams 等が使用できる。COVID-19 により特に着目され、ビジネス現場でも多く活用が見られる。

契約形態により使用できるサービスの種別が異なるが、教育向け契約は一般向け契約と比較し安価に使用することが可能になっている。教育向けライセンスであっても使用できるツールは多い。

本稿では、このツール群の中でアンケートやクイズの出題・集計ができる Microsoft Forms に着目した。Forms の機能についてまとめ、講義等で活用するための一助となることを目的とした。

**キーワード**：Forms、Microsoft365、アンケートツール

## 1. 背景・目的

2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響は、社会活動全般におけるコミュニケーションに大きな影響を与えた。本学でも、オンライン授業環境を急ぎ構築し数か月ではあるが非対面授業が実施された。本学で導入されたのは Microsoft 社が提供する Microsoft365<sup>1)</sup> である。本学では「帝短 365」と呼称している。使用できるサービスは幅広く、Web ブラウザ上による Office アプリケーションの使用 (Word, Excel, PowerPoint, OneNote) や、オンラインストレージ (OneDrive)、コラボレーションツールである teams、図形作成ソフト Visio 等がある。この他 RPA<sup>2)</sup> ツールである Power Automate の使用も機能は限定されるが含まれている。Microsoft365 の使い方は全般を扱うものから、ミクロな範囲のものまで公式サイトで提供されるマニュアル<sup>3)</sup> や、多くの成書が刊行されている。必要とする範囲を扱う書籍を参考にしたい。

本稿では、学内で授業や各種調査、データ収集に活用できる Microsoft Forms<sup>4)</sup> の機能についてまとめ、授業などで活用する一助となることを目的とする。

## 2. Microsoft Forms の概要

Microsoft Forms (以下、Forms とする) は、様々な言語、多くのシステムや端末に対応したアンケート回収・クイズ出題を行うことができるクラウド型ツールである。クラウド型であるため、利用者はサーバを持つことや設定を行う必要はなく Microsoft365 の契約があれば使用可能になる。操作は全て Web ブラウザ上で行うことができるため、作成や回答にあたり専用のアプリケーションソフトを端末に設定する必要はない。使い勝手には制限がかかるが、パソコンだけでなくタブレット端末でも作成を行うことは可能である。回答はパソコンだけでなくスマートフォン、タブレット等に対応している。

## 3. Forms でできること

Forms では「フォーム」と「クイズ」を作成することができる。フォームは回答画面を作成し、投稿されたデータを回収する機能である。クイズはフォームの機能に対し、点数計算機能と回答の答えを確認する機能が追加されている。答え確認は回答後自動表示する方法も設定できる。本稿では扱わないが teams アプリの「課題」機能と組み合わせることで、簡易

LMS (Learning Management System)<sup>5)</sup>のような使い方も可能である。

### 3-1. 設問設定の種類

設問の設定は8種類が可能である。設定と備考をまとめた表を Table.1 に示し、作例をまとめた図を Figure.1 及び Figure.2 に示す。

Table.1 Forms で設定できる設問の種類

種類	上限等
選択肢	択一・複数選択形式 選択肢のシャッフル ドロップダウンリストの形式 数値演算表現 サブタイトルの作成 回答内容による分岐処理 フォームの場合「その他」項目設定が可能
テキスト (文字)	回答形式 (数値) の制限 例) 数値のみ等 数値演算表現 回答内容による分岐処理
評価	最大 10 段階設定 数値や星印のシンボルが使用可能
日付	
ランキング	最大 10 個の選択肢を設定し、順位を回答
リッカー	選択肢は最大 7 つ 設問は最大 20 問 回答後のグラフ処理でポジティブ傾向かネガティブ傾向かを可視化しやすい。 Forms の説明では「トピックについて考え方や意見を集計するのに用いる方法」
ファイルアップロード	ファイル回収機能 回収ファイルは Forms 作成者の One Drive に格納
Net Promoter Score	最大 10 段階でポジティブ・ネガティブの回答



Figure.1 設問設定画面 (1)



Figure.2 設問設定画面 (2)

### 3-2. 画面体裁の設定

テーマ設定機能があり、背景や色合いを変えることが可能である。定型パターン以外にも任意の図を取り込んで背景にすることや、オリジナルの色合いにすることができる。

### 3-3. 回答者の設定と回答方法

回答者権限は3種類あり、権限の種類と特徴をまとめた表を Table.2 に示す。

所属組織内に限定したフォームでは、回答者は Microsoft365 にサインインした端末から回答する必要がある。Table.2 に示した特徴のほか、回答した内容を回答者のメールで通知する機能、送信後に応答の受信を行う機能の使用が可能である。特定ユーザの指定はユーザだけでなく、

グループ指定が可能であるため、クラスなどの単位でグループを作成してあれば指定単位のみを回答対象とすることができる。

Table.2 回答者権限の設定

権限レベル	特徴
すべてのユーザが回答可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 回答フォームのアドレスやQRコードが分かれば、全てのユーザーから回答を受け付けることが可能。</li> <li>× 一人一回のみ回答制限ができない</li> <li>× 名前等回答者情報を記録する項目作成が必要</li> </ul>
所属組織内のユーザが回答可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 回答者のIDが記録され、一人一回の制限が可能</li> <li>× 所属組織のIDがなければ回答できない。</li> </ul>
所属組織内の特定ユーザが回答可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属機関内でも登録したID以外は回答できない</li> <li>× 回答できるユーザの登録が必須となる</li> </ul>

回答方法は、URLを示す方法（短縮URLも作成可能）、QRコードを出力し提示する方法、Webサイトにタグを使って埋め込む方法、Outlookやteamsで送信を行う方法がある。回答には開始日時・終了日時の設定を行うことができる。また質問を回答ごとにシャッフルする機能や、複数ページにわたった場合に進行状況のプログレスバー（進捗度）を表示する機能も有する。

### 3-4. 回答の処理

回答後のデータ処理も自動で概要を処理する機能が実装されている。設問毎の回答画面を Figure.3, Figure.4, Figure.5, 及び Figure.6 に示す。この他、個別回答の確認を行うことや、回答データをまとめた表にしてエクセル形式のエクスポートも可能である。

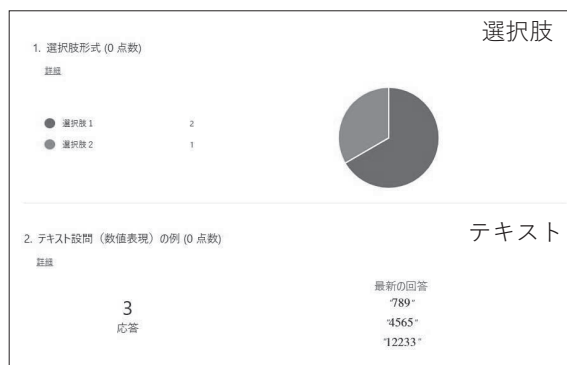


Figure.3 回答概要画面 (1)

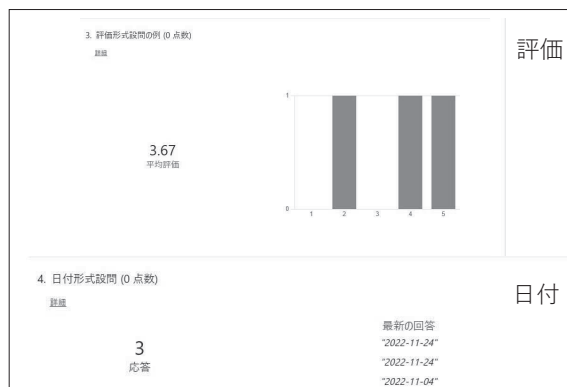


Figure.4 回答概要画面 (2)

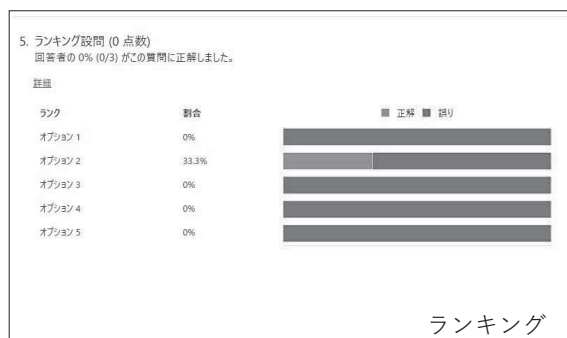


Figure.5 回答概要画面 (3)



Figure.6 回答概要画面 (4)

また、処理を行うのは作成者だけではなく、共有して共同作業を行うことやテ

ンプレートとして組織内のユーザと共有することが可能である。共同作業とテンプレートの違いは、実施中の回答内容の有無による。再利用するアンケートなどであれば、テンプレートとして共有することで、組織内の他ユーザが再度アンケート設定を行うことが可能となる。共有した場合は、実施中の回答データも含まれた形で編集・閲覧・複製が可能である。

いずれも作成者がリンクを作成し、共有したい人へアドレスを送ることで実施ができる。万が一、関係外の人へ送信してしまうなど使用を中止したいときはリンクを削除することが可能である。

### 3-5. 設定できない事項

パスワードなどの機密情報を回収することは利用規約上禁止されている。例えば、設問に「パスワード」という文言を設定すると、自動判断で回答ができないようにロックされる。回答画面に「個人情報または機密情報を要求しているため、送信に失敗しました。」と表示され回答できなくなるので注意が必要である。

## 4. クラウド型のメリットとデメリット

Microsoft365はクラウド型のサービスである。クラウド型のメリットは、使用開始が簡単であることや、インターネットにつながる端末からいつでも作成し、回答回収も速やかに行うことがあげられる。また、ノーコードのシステムなのでプログラミングの知識がなくても作成す

ることが可能である。

デメリットは、通信環境と作成する際のパソコンメモリの容量である。クラウド型は端末でプログラムやデータを管理せず、インターネットにつながれたサーバで処理を行う。その為、サーバと端末間で作成中・解答中いずれも通信回線でサーバと端末間通信が行われる。文字情報が主体となるため動画閲覧とは異なり短時間で大量のパケットを消費することは、設問に動画が設定されている場合を除いては考えにくい。作成者は画像データを使う場合もあるので安定して高速な回線環境を持っていることが望ましい。回答者は通信速度が多少低くても接続状況が安定した回線で実施することが望ましい。いずれにしても速度よりも安定した接続環境の方が必要となる。モバイル通信の場合は混雑時の移動を避けることや不安定な無線LAN接続時に使用しないことが対策として考えられる。

また、サーバへの接続は、Webブラウザを使用する。Webブラウザはアプリケーションソフトの中では、メモリを多く消費する。その為、快適に使用するのであればWindows 端末ならメインメモリは8GB以上をお勧めしたい。また、Webブラウザやオペレーティングシステムのセキュリティパッチ適用等更新を適宜行い、最新版にしておくことも望ましい。

## 5. Forms の活用

大学の講義・実験等での使用用途は、



演習問題の回答回収や申告内容の回収があげられる。この他に宿題の提出にも適切が自動設定できるため活用できる。クイズを使い、選択肢シャッフルの機能を用いることで、自学自習用の課題作成にも適用できると考える。ファイル回収機能は1フォームで1ファイル程度が使用経験から望ましいと考えられる。複数ファイルを回収する場合には、Zipなどのファイル圧縮ツール（アーカイバ）を使用することがよいらろう。対面環境下でも使用することは可能であり、集計などの機能を活用することで業務負荷を軽減できると考えられる。物理的に離れた相手からも回収が可能であるため、通信教育課程や学外実習中の課題・レポートの提出も有用だと考える。

## 6. まとめ

Forms は Microsoft365 が導入されている組織において、使用開始のハードルが低く使用できるシステムである。文字化けなどもなく、Office アプリケーションとの連携性もよいので使いやすいシステムと考えられる。同様のシステムに Google 社が提供している Google workspace にある Google Forms<sup>6)</sup> もある。選択肢設定の名称が異なるなどの差異はあるが、Microsoft Forms と同様にクラウド運用・ノーコードでフォームを作成することができる。Microsoft365 と異なる点は、組織ベースでなく google ID があれば個人でもすぐに使用できることはメリットで

あると考えられる。いずれにしてもマークシートや配布紙方式と比べ、自動集計ができることやまとめファイルが作成される等の機能を有効に活用できれば、集計以外のことに時間を作ることができる。また、共有リンクを用いることで、オムニバス講義への導入、教員組織で複数人が処理に関わる案件であってもファイル授受を伴うことなく便利に活用することができる。手書きでなければならない課題（書き方・漢字の筆記等）以外であれば活用することは有用であると考えられる。

## 文 献

- 1) Microsoft365 とは  
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/what-is-microsoft-365>
- 2) 野村総合研究所 用語解説 RPA  
<https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/1st/alphabet/rpa>
- 3) Microsoft365 ドキュメント  
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/?view=o365-worldwide>
- 4) Microsoft Forms  
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/online-surveys-polls-quizzes>
- 5) コトバンク “LMS” の解説  
<https://kotobank.jp/word/LMS-1510792>